

NIEの課題に取り組む児童



谷山小学校(鹿児島市)

全学年で多彩な活動

新聞に親しむ多彩な活動に全学年で取り組む。実践校1年目はNIEの土台づくりに力を注いだ。「子どもの目を広く社会に向ける」との目標を掲げ、各学年の担当が知恵を絞りバラエティーに富むメニューをそろえた。

2月1日のNIEタイム。2年生はスポーツ記事から力タカナの言葉を探し、4年生は新聞を広げて気になる記事を発表し合った。3年生は記事を読んで気付いたこと、思ったことを書いた。野元ひよ

りさんは「新元号は4月1日に分かることを知った」と記した。

「前向きな言葉が聞かれ、新聞への反応が良くなったようだ」と立和田大樹教諭は手応えを語る。「NIEは多様な記事や写真に触れるので、各教科の学力を高める手段となる」と話す。

新聞記事を題材に家庭で会話を広げるファミリーフォーカスも全学年で取り組む。

(藤崎慎)

新聞を活用して職業について知る生徒



川辺中学校(南九州市)

未知の世界に関心も

多くの生徒が通る中央階段近くに新聞を置き、壁には抜粋した記事を掲示している。各学級では、日直が関心を持った記事を紹介する。新聞は毎日触れる身近な存在だ。

実践校3年目。1年目から週末課題でコラムの書写や感想書き、音読に取り組んでいる。一部は授業でも紹介。本年度は読解力を磨くため、設問を工夫した。NIE担当の東まどか教諭は「新聞の活用が生徒の思考のレベルアップ

に役立っている」と確かな手応えを語る。

新聞を使う科目も広がっている。1年の学級活動では、時の人を紹介する本紙「かお」欄を通して職業を学んだ。「社会は多くの職業で成り立っていて、働く人それぞれに背景や物語がある。勤労観や職業観を育めたら」と荻田眞希教諭。生徒は未知の職業や人物に対し、興味を持った様子だった。

(入角里絵子)